

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年5月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675100111
法人名	(有)フェルナンデス
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	鹿児島県伊佐市菱刈重留1137 (電話) 0995-24-1688
自己評価作成日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの力量に合わせてながら利用者が決定するようにしており、決める時も利用者が中心になって話し合いをし決定している。スタッフはそれをサポートする形で支援し日々の生活を送っている。健康管理も早め早めの気付きを大切にしながら早期対応を心がけ、重症化するのを防ぎ入院0を目指して取り組んでいる。笑いの絶えない生活になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは田園が広がるのどかな場所にあり、あたりの民家に馴染み、違和感なく建てられている。国道も近く近隣にはコンビニエンスストアや生活雑貨店もあり、利用者が散歩がてらに行ける便利な生活環境にある。

グループホームでは珍しく、利用者が「婦人会」を立ち上げている。季節野菜の選定から収穫までに関わり、保存食や行事食作りなど職員に手ほどきする機会も作っている。季節折々で、利用者同士が話し合い決定し、それぞれに生活に張り生き甲斐を持てるような取り組みを行っている。

開設当初より、地域との交流に力を入れており、双方で信頼関係を築き、密な連携が取れている。災害時の協力体制として地域の防災組織に「ひだまり班」が設置され、地域全体で利用者の安全確保に向け、具体的な救出訓練も行われている。

職員は、毎月「利用者カレンダー」を作成し、利用者毎に日々の気付きをその時々で記録する習慣をつけており、情報の共用化とプラン反映にも大いに活かされている。

朝夕の繁忙時には有償ボランティアを補充し、日中も職員配置にゆとりを持ち、見守りを重視し利用者主体の質の高いサービスを提供している。

運営者は今後、若い職員の育成に更に力を入れていく意向であり、新たな取り組みや今後の展開が期待できるホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	日々職員が振り返りながらお互い声掛けをしながら取り組んでいる	職員全員で話し合い、毎年、理念に繋がる年間目標を掲げている。思いに寄り添い、利用者の自己決定を重視したケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や近隣の方々から常に気をかけてもらい野菜のやり取りや防災訓練へは地域から施設班が駆けつけるなどの協力体制にある	開設当初より、地域交流やホームへの理解を得る努力をしており、自治会にも加入し連携を図っている。地域行事である夏祭りや駅伝大会の応援参加は毎年、利用者の楽しみになっている。地域の防災組織に「ひだまり班」が設置され強力な協力体制を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近所を散歩するときや知人の面会時などの会話を通じて認知症の理解をいただけるように支援している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困りごとや日々の事例を出して意見や助言をいただいて解決のヒントとしている。	家族、行政、地域代表等の参加を得て2カ月毎の定期開催である。現状報告や都度、ホームの課題を取り上げ、改善に向けた意見やアイデアをサービスに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接市町村に出向いたり、地域密着型連絡会に参加するなどして市町村との連携が取れるように取り組んでいる	ホームの現状報告や地域情報の収集など双方で連携を取り合い、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないとなっているが、身体拘束委員会も立ち上げて日々の振り返りや早期発見ができるように取り組んでいる	職員は身体拘束や虐待を防ぐ取り組みについて日頃から研修を行い、ケアの中で都度、気付きは注意し合うなど、意識や知識を高く持ち対応している。勤務体制にもゆとりを持ち利用者個々に目が届き、職員の見守りと連携で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々申し合わせ確認しながら絶対行わないことで取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか該当者がなく触れる機会がないが、必要時は柔軟な対応をしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に契約を交わす際十分な説明をしながら不明な点はないか話し合いをしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>関係が保ててきているので家族の方とも一緒にお茶を飲むなどして友好関係を築き、その場でいろんな意見や要望を話して下さるようになってきている。</p>	<p>花見や敬老会を兼ねた家族会を年に2回行っている。職員は家族単位のテーブルを回り、コミュニケーションを図る大事な機会にしている。面会時や電話を通じた意見、要望も全員で話し合い、運営に活かされる様に努めている。今後は月1回の通信内容の充実も視野に入れている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常の業務の中や月に一回全員参加の職員会議で職員の小さな意見でも聞き取り検討している</p>	<p>全員参加のミーティングを月1回行っている。日々の気付きを書き込んだ「利用者カレンダー」を中心に活発な意見交換の場になっている。職員は経験年数や年代層も幅広く、キャリアアップを目指す職員も多数いる。研修の機会も多く設けサービスの質の向上につなげている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員一人一人の勤務状況や就労時間の調整をするなどして働きやす職場環境の提供他、能力や実績を反映した給与水準に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得のための勤務調整や対象者への勉強会などは個別に実施され内外での研修会なども順次実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会に参加し常に情報を共有している。同業者との交流は必要ないと考える。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用期間が長くなっているため関係は築けてきているが、初期には職員の気づきや本人とのコミュニケーションを十分に聞く取り組みをしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族との関係が築けるように常に努めており希望を伝えやすいように取り組んでいる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>良く話し合いを行い意見や希望を聞き、家族構成や生活環境なども踏まえ検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>まず利用者が話し合い決定することを主にし職員は実現できるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回の食事の機会や時間に決まりのない面会の受け入れなどで交流が持ちやすい環境を提供しながらそれぞれの絆が新しい形で構築できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を受けて個別に柔軟に対応し、買い物や知人へ面会に行くための外出など常に実施し支援している。	墓参りに帰った際、近所の人と話す貴重な機会がある。地域行事への参加や買い物、行きつけの美容室利用など、これまでの馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。親族や知人などがいつでも訪問し易いような雰囲気づくりを心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で【婦人会】を結成しており助け合い生活している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年は退所者がいないが、数年前の利用者のご家族には現在も交流が続いている方があるなど柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人が意見や希望を出しやすいように関係を築き利用者本位で暮らせるように常に努めている。	現時点では利用者の殆どが、意思伝達が可能な状態にある。毎月の「利用者カレンダー」を職員間で共有し、個々の思いや意向に寄り添うケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活環境を元に普段の会話や行動への支援に生かし支援するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作業やレク等の同じ作業をする際にもそれぞれの状態に応じた支援に変えて達成感が味わえるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	暮らしの中で普段から本人の希望や能力が生かせるように常に意見交換、情報の共有をしながら介護計画に役立てている。	ケアの途中であっても、利用者個々の気付きを書き留める手製のカレンダーを作成しており、プラン作成に活かされている。本人、家族の意向を踏まえ、状態変化を見逃さず、常に現状に即した介護計画になるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日細かく変化や様子などを記録し、申し送りなど介護計画に役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>施設内の生活だけにとらわれず希望には可能な限り対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内会に加入し様々な協力体制をいただき、歯科などについても往診で柔軟に支援してもらっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>一人ひとりそれぞれの入所前からのかかりつけ医を継続しており必要や希望に応じては専門医へ紹介を受けるなどして支援している。</p>	<p>希望のかかりつけ医の継続支援である。定期受診はホーム側で支援しているが、状況に応じ家族が付き添う事もある。協力医療機関との24時間医療連携も整い、訪問看護師による密な健康管理を行っており、わずかな変化も見逃さずに早期対応に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週に1回訪問看護を定期的に受け情報を共有している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	訪問看護の協力により早期退院は常に実現できている。また家族と協議し本人の入院中の精神的な不安が和らぐよう、医療機関との関係を良好に保ち面会を通じて支援の継続を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	状況を見据え段階的に終末期のあり方について意見を交換しながら看取りへの取り組みを行い実現してきたが現在は対象者がなく経験を生かした準備はある。	これまでも経験があり、重要事項説明書に明記し、入居時に説明をしている。段階に応じ、医師の判断を基に、家族の意向を都度、確認し同意書を取り交わしている。職員もこれまでの経験や知識を十分に活かし、希望があれば、最期まで家族の希望に添えるように最大限の支援に取り組む用意がある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	勉強会を行うことで事前の備えや実際の事故の場合の迅速な対応など日々申し合わせ支援につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域主催で開催される防災訓練への参加や法人内での行われる年二回の避難訓練など計画されている。</p>	<p>昼夜間を想定した年2回の避難訓練の他に、独自で通報訓練も行っている。地域の防災訓練にも毎回参加しており、防災組織の中に「ひだまり班」の救援隊が設置されている。車椅子を使った具体的な救出訓練も行われるなど密な協力体制を築いている。備蓄は法人全体で管理している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず意志の確認をし本人の意思に沿って支援をしている。	第一に利用者の気持ちを重視しており、声掛けを行い本人の納得が得られるように丁寧な対応に努めている。特にトイレ誘導や入浴介助など羞恥心には特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分たちのペースでの生活になっているので職員はそれについてのサポートをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	みなさんそれぞれその人らしい生活を実現している。職員はそれを妨げることがないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	それぞれが自己決定し実施できている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は何が食べたいか聞きメニューを決めている。またできるところを一緒に行う調理もに心がけている。	季節に応じた行事食や保存食作りなど利用者も生き生きと参加している。誕生日には希望食を作り、手作りのケーキで祝っている。家族と外食に行く利用者もおり、近くの公園へ弁当持参で出かけたり、駐車場で焼きそばをするなど目先を変え食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合的な摂取量が確保できるよう細かく記録・把握・検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きうがい義歯については毎晩洗浄剤での漬け置き、必要者の歯科治療は往診にて協力をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの能力に応じた自立に向けての支援を常に実施、排泄の機能を維持できている。	個々の排泄パターンを職員間で共有し、見守りと連携で日中はオムツの使用を無くし、トイレでの自立支援に繋げている。夜間帯はポータブルやリハビリパンツ等を使用し状況に応じた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれ食事形態の内容を注意し下剤の調整などで予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	現状としては身体の清潔の面から定期的な入浴を実施しているが本人の希望するときにいつでも入れるような体制ができている。	無理強いをすることなく、清潔を保持出来る範囲で柔軟に対応している。異性介助は羞恥心に十分な配慮をしている。職員との会話を楽しみながら、季節の入浴剤なども取り入れ、入浴が楽しく、リラックスした時間になる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のみに限らずそれぞれがくつろぎやすい場所やソファなどで休むことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの説明を十分に受け変更時など職員が周知できるよう申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが能力や趣味、特技を生かし、楽しみながらやり遂げられる作業を行えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて柔軟に屋外の散歩や近所への買い物を実施しており個別にお墓参りや、美容室に行くなどの支援も実施できている。	季節毎の花見見学や、地域行事への参加、恒例の駅伝大会の応援など年間を通した多彩な外出計画が組み込まれている。近隣のドライブやホーム周辺の散歩は日常的であり、買い物などの個別支援や、弁当持参で出かけるピクニックなど社会生活の繋がりや五感の刺激を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>大半の方は家族の管理となっているが個人で持っている方については家族と相談の上継続して本人に管理してもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持たれていたり外線電話を使用しての会話、手紙のやり取りなど自由に行えるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>冬季はコタツを出すなど季節が感じられるように家庭に近い環境づくりに努め利用者が話し合った環境づくりをし支援している。</p>	<p>定員拡充に伴い共用空間の増床を行っている。掃除が行き届き臭いもなく清潔な環境が保たれている。対面キッチンの調理の臭いや音からも家庭生活の延長を感じ取れる。炬燵を囲むように利用者同士が和気あいあいと和んでおりゆったりと自由に暮らせる共用空間になっている。その時々でソファの位置を変えるなど利用者本位の空間作りを工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間では日常生活の中で利用者間で自然と居場所が定着しておりくつろげるよう常に支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なじみの家具を持ち込まれるなどして本人本位で暮らせるように支援している。</p>	<p>備え付けのベッドの他に、家族写真やぬいぐるみなど馴染みの深い品を飾るなどし、安心して居心地よく過ごせるプライベート空間になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>掲示物での誘導や表札での案内、同線上の安全確保をするなどして安全に生活できるよう支援している</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない